

白内障に対する水晶体再建術についての説明

白内障は、茶色い瞳(虹彩)の裏にある水晶体が濁り、見えにくくなる病気です。手術では、濁った水晶体を取り除き、水晶体の代わりに透明な眼内レンズを眼の中に入れます。手術を受ければ、多くの場合良く見えるようになります。ただし、白内障以外の眼の病気や脳の病気がある場合は、それなりの見え方になります。

手術の方法と所要時間

手術は局所麻酔で行います。白目と黒目の境目付近を3mm足らず切り、そこから細い筒を入れて、濁った水晶体を砕きながら吸い出します。濁りが取れたら眼内レンズを入れ、最初に切った切り口が閉じることを確認して終了します。

手術時間は特別な事情がなければ10～20分です。手術室には準備も含めて20～30分滞在します。

手術前後の生活

手術3日前から 手術前日まで	ばい菌止めの目薬を点眼します。 生活は普段どおりで結構です。
手術当日	来院前から瞳孔を開く目薬を点眼します。 手術終了時に眼帯をし、翌日の受診時まで外しません。 洗顔、洗髪、お化粧品はできません。お風呂、シャワーは控えて頂きます。 自動車の運転はできません。
手術翌日から 手術後約1週間まで	手術翌日、翌々日、約1週間後に診察します。(状態によっては診察が増える場合があります。) 数種類の目薬を点眼します。 目に水が入らないようにするため、顔を洗えずおしぼりで拭くようになります。髪は自分では洗えませんが、美容院での洗髪(仰向けで目隠しをして他の人に洗ってもらう)は可能です。 お風呂、シャワーは目に水が入らないように注意すれば可能です。お化粧品はできません。数日間は、寝るときに眼帯をして目を保護してもらいます。 自動車運転の予定は入れないでください。また、万が一のときにすぐに受診が出来るように、遠出は厳禁です。
手術後1週間以降	手術前に通院されていた眼科に受診して頂きます。 点眼を続けますが、顔や髪も自分で洗えて、通常の日常生活に戻れます。激しい運動や海外旅行などは引き続き控えて下さい。控える期間はかかりつけの先生と相談して下さい。 自動車の運転は手術後の視力次第で可能になります。

仕事への復帰までには、事務仕事は1～3日程度、軽労働は3～7日程度、激しい肉体労働は1～2週間程度かかります。お酒は、手術後の傷の治りに影響しますので、2～3日は中断しましょう。

手術後の見え方について

先に述べたとおり、手術を受ければ、ほとんどの場合良く見えるようになります。ただし、白内障以外の眼の病気や脳の病気がある場合は、期待したほどには良く見えるようにならない場合があります。

「良くは見えるが違和感がある」という場合もあるようです。手術後の患者さんから「飛蚊症が増えた」、「光の輪が見えるようになった」、「色合いが変わった」などと言われることがあります。ほとんどの場合はしばらくすると慣れるようですが、気になり続ける方もまれにいます。

手術後には、それまでかけていたメガネが合わなくなる可能性が高いです。メガネの度数が安定するのに1～2ヶ月かかるので、メガネの作り直しはそれまで待ちますが、相談の上で早めに作ることもできます。

手術後数ヶ月から数年経つと、眼内レンズの裏に濁った膜ができて、視力が落ちる場合があります(後発白内障)。この場合は外来のレーザー治療でその膜を破って視力を回復させることができます。視力低下を感じたら早めに受診しましょう。

眼内レンズについて

眼内レンズはアクリルでできており、メガネやコンタクトレンズと同様に度数がいろいろあります。手術前の検査結果を参考に、手術を受ける方に最も合うと思われるレンズ度数を選びます。ただし通常の眼内レンズはピント調節の力がないため、見る距離によってはメガネなしでは良く見えません。一般には正視合わせ(遠くを裸眼で見やすくして、近くは老眼のメガネをかける)か、近視合わせ(近くを裸眼で見やすくして、遠くは近眼のメガネをかける)のどちらかを選びますが、多くは手術前と同じにするのが楽なようです。ただし度数の予測精度には限界があり、手術後のピント予測がはずれる場合があります。その場合はメガネで調整します。特に強いご希望があれば眼内レンズの入れ替え手術を検討しますが、それでもメガネなしでよく

見えるようになるとは限らず、メガネが必要になる場合があります。

乱視については、そもそも乱視が全くない方は珍しく、ほとんどの場合乱視が残ります。特に強い乱視が残りそうな場合には、乱視用のレンズを用いる場合がありますが、それでも乱視が全くなくなることはまずありません。

なお、近年、遠近両用眼内レンズが開発されています。うまくいけば良いのですが、眼内レンズに健康保険が適用されないこと、見え方の予測がつきにくいことなど、問題点もあるようです。現在のところ当院では導入する予定はありませんが、問題点についてさらにお知りになりたい方はお尋ね下さい。

通常、眼内レンズは一生涯にわたって交換の必要はありません。

手術の合併症について

手術中や手術後の不具合をまとめて「合併症」といい、世間一般では「医療ミス」と呼ぶものも合併症に含まれます。白内障の手術は安全性の高い手術で、ほとんどの場合大きな問題なく終了します。しかし、いかに名医であっても合併症を100%起こさないとは断言ができません。例えば、駆逐性出血という手術中の激しい眼底出血は、数万～数十万人に1人と極めてまれですが、どんなに手術の腕が良くても起こり得ると言われており、起きた場合にはそのまま目が見えなくなる可能性があります。また、手術が無事に終了しても、手術後に目の中がばい菌で化膿してしまう術後眼内炎が数千人に1人あり、この場合もやはり目が見えなくなる可能性があります。その他、手術中に濁った水晶体が眼底に落ちてしまう水晶体核落下や、眼内レンズを入れられずに手術を終了する場合など、大学病院等で追加手術が必要になることも、まれですがあり得ます。

また、手術後は出血や充血で白目が赤くなったり、ごろごろを感じる場合があります。心配なものではなく、通常は1週間以内に消えますが、ごろごろ感などの異物感がずっと続いて、点眼で対症療法を続ける方もまれにいます。

これらの場合も含め、合併症が起きた場合の治療・治療費は別途必要になります。我々としては、丁寧に手術を行うことによって合併症を予防し、万が一合併症が起きた場合には最善の対策をご一緒に考えるよう努力いたします。

※ その他の合併症：麻酔薬によるアレルギーショック、網膜剥離、眼内レンズ落下、続発緑内障、飛蚊症、羞明(まぶしく感じる事)、水疱性角膜症、嚢胞様黄斑浮腫、眼瞼下垂、糖尿病網膜症の増悪、血管新生緑内障 …など

手術を受けない場合

白内障による見えにくさを改善する方法は手術以外には無いので、手術を受けない場合には見え方はそのままか、あるいは白内障が進行してさらに見えにくくなります。進行予防のための目薬がありますが、進んでしまった白内障を治すものではありません。ただし白内障は一部の例外を除けば急を要する病気ではないので、手術を延期しても多くの場合は問題ありません。白内障によって別の病気も引き起こされているような特別な場合には、医師の側から理由を説明して、手術を受けることをお勧めすることになります。また白内障が進みすぎると、手術自体が難しくなり合併症が増えることが考えられるので、既にかなり進んでいて今後さらに進むことが予想される白内障については、早めの手術をお勧めする場合があります。

手術の費用

白内障手術は健康保険が適用されます。片眼につき、1割負担で1万5000円程度、3割負担で4万5000円程度です。両目を同じ月に行った場合には、高額医療費制度によって、医療費の一部が免除される場合があります。

民間保険の保険金

入院保険などで手術に対して保険金が支払われる場合がありますので、加入されている方は保険会社にご確認下さい。(病名：白内障、手術名：水晶体再建術)

その他の情報

インターネットを使われる方は、「白内障手術」などで検索すると、たくさんの情報が得られます。当院では峰村医師がインターネット上に解説ページを公開していますので、興味がある方はご利用ください。検索サイトのGoogleで「白内障手術マニックス」と検索すれば見つかります。アドレスは以下のとおりです。

<http://www.minemura.org/cataract/>